

令和2年度 5月号

令和2年5月7日発行

横浜市立東汲沢小学校

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

「本質的な学び」と「子どもが納得できる解」

校長 丹羽正昇

新型コロナウイルス感染症拡大防止という命を守る行動が第一ということで、一斉臨時休業期間が長期に渡り、ご家庭への負担や学習への不安等が大きくなっているのではと拝察いたします。4月、子どもの声がない、姿がない学校は、あまりにも寂しい状態でした。現在、職員一同、再開後の準備に力を入れ、明るく元気に勤務しておりますが、どこか本調子ではない様子も垣間見られます。

そのような状況下で、学校の存在価値や学校教育の意義について、私なりに考えてみたことがあります。いまの状態を、子どもはどう思っているのかなという素朴な疑問がきっかけでした。家庭にいても学習はできる。だとすれば、どうして学校に行く必要があるのか。そう考えた子どもがいるかもしれない。ふと、そんなことを思い、もし、そう考えた子どもがいたなら、実に頼もしいと考えたのです。

普段、大人は子どものことを思って、こうすればうまくいくよと、適切に助言したり導いたりします。人生の先輩としての助言のおかげで、日常的に大きな過ちを子どもがしなくても済んでいます。しかし、ときに、よいと思った助言が、実は子ども自身が考える機会を奪ってしまっていることがあります。もちろん、私は、過去の経験が生きることも知っていますし、経験や体験は貴重なもので、未成熟な子どもにとっては、大切な道標になることも知っています。それでも、過去の経験や体験が当てはまらない、通用しないときがあります。そんなときに大切にしたいのが、しっかり自分で考えたり、考えたことに基づいて行動したりすることです。

先程の例でいえば、学校にどうして行くのかの問いに対する答えは、大人も子どもも普段は曖昧です。「みんなが行っているから。」「前からそういうことになっているから。」等々、答えにならない答えに、なんとなく納得してしまっています。でも、本質的な問いに対して、たとえすぐには答えが出なくても、あきらめず、粘り強く、真摯に取り組んでいけば、「学校で自分はこうしたい。」「学校に行くのは、こうした理由があるからだ。」など、自分の明確な欲求や目的意識に裏付けられた解が得られるはず。それらは、大人からみれば必ずしも正解ではないかもしれませんが、子どもが納得できる解、「納得解」になっています。納得解には自覚と責任が伴い、自覚と責任は、主体性を生みます。自分が主体的になれる時間や場所は、わくわくします。

「今日、学校行ったらこれをやるんだ。」「学校に行くと、他ではできないこんなことができるはずだ。」など、一人ひとりの子どもがわくわくする学校が、私の理想です。そんな学校を子どもや職員、ご家庭や地域の皆様と築いていきたいと思えます。

ひぐみっ子のみなさんへ

学校がお休みの間、何を考えていますか。何に取り組んでいますか。新型コロナウイルスが世界中、日本中に広がって、大人がいっしょうけんめい考えても、何が正解なのかわからない状態が続いています。しかし、大人はあきらめずに粘り強くがんばっています。みなさんも、いま自分のできること（学習かな、かるく体を動かすことかな、おうちでの自分の役割をはたすことかな）を考えて実行してみてください。何をすることが正解かなんて考えなくてもいいですよ。自分が責任をもってできることを探して、あきらめず粘り強く取り組みましょう。校長先生より